キリストにあって、スポーツも礼拝です！

Athlete Church

ATHLETE CHURCH AC

～神様の恵みと皆さんの
祈りにささえられて～

ルカの福音書4章18-19節
「主の霊がわたしの上にある。
貧しい人に良い知らせを伝えるため、
主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。
捕らわれ人には解放を、
目の見えない人には目の開かれることを告げ、
虐げられている人を自由の身とし、
主の恵みの年を告げるために。」

目次

【最初に】

・名古屋の地から横浜の地へ　P.1

・台湾ユニバーシアード　P.2

・韓国卓球宣教　P.2

【使徒の働きのように～29章を歩む～】

・第1次宣教旅行　P.3~4

・第2次宣教旅行　P.5~6

・第3次宣教旅行　P.7~8

・第4次宣教旅行　P.9

・第5次宣教旅行　P.10

【その他の訪問教会＆働き】P. 4 ,11~12

【スポーツミニストリーの二本柱】

・一人の魂のために、部活・スポーツに関わる者たちへ　P.13

・一致をもたらすスポーツミニストリー

-教会内の一致　P.14

-教会間の一致　P.15

-教会と地域の一致　P.16

【日本の教会の長所（ギフト）を活かす】　P.17~19

【アスリートチャーチの今後の歩み】 P.20

【ロードマップ&祈祷課題】　P.21

ATHLETE CHURCH

【最初に】

★名古屋の地から横浜の地へ

2016年末、22年間続けてきた陸上競技を神様に委ね、休養をとりました。
韓国の所属チームを退社し、今後、『私たち家族が神様のためにできることは何か? 』
『日本にいる意味』をずっと考えてきました。神様が与えて下さった安息の中で、doingに行きたい衝動に駆られながらも、神様が『GO! ! ! 』と言われるまで、耐え、留まり、導きを待っていました。
その中で海外へアウトリーチにも行き、また、違った世界に足を踏み入れることにより、初めてスポーツを通して、日本に、世界に福音を伝える働きがあることを知りました。
今まで、教会の働きとスポーツを一緒にやることは難しいことを経験してきた私たちは、陸上競技そのものが、スポーツそのものが教会の働きに、そして神様の働きになる場所があれば良いなとずっと葛藤し続けてきました。教会の中で働くことも神様の働きですが、スポーツをすることも教会の働き、神様の働きの一つである。こうして、2017年に急スピードでスポーツ宣教の道に導かれ、名古屋から横浜の地に導かれました。
スポーツを通してしか救うことのできない魂があります。
日本は国民の７０％が何らかの形でスポーツに関わっています。
教会を拠点とし、イエス様がされたように彼らの居場所に伝えに行くことが主が喜ばれることではないかと思います。１人の魂を救うために神様が与えられたことに従順していれば、
必ず道が開かれると信じています。

名古屋オンヌリ教会から横浜の地へ向かう派遣式

スポーツ宣教の道を教えてくださった
韓国オンヌリ教会ノ・チヒョン先生

いつも祈りとサポートをもって、送り出してくださる本郷台キリスト教会の神の家族

★台湾ユニバーシアード大会（2017年）

スポーツ宣教を知って間もなく、韓国のスポーツ宣教チームと共に、世界大会の選手村教会での働きをする機会が与えられました。チャプレンて何? みたいに何も知らないけれど、頭で考えるよりとにかく行ってみよう! と台湾に行きました。選手村教会で日本人のクリスチャンと出会い、また選手村内で多く日本の選手に伝道する働きをしました。競技を応援するなかで、勝敗に関わらず選手の存在の大切さに気づかされ、競技自体が神様に捧げる礼拝であるということを実感しました。また、他国には選手団と共にチャプレンを同行しているチームもあり、いつでも礼拝を捧げ、みことばを分かち合い、メンタルケアができる体制が整っていて、学ぶべき点がたくさんありました。

代表チームで参加したクリスチャンの
日本人スタッフに出会いました

選手村教会での働き

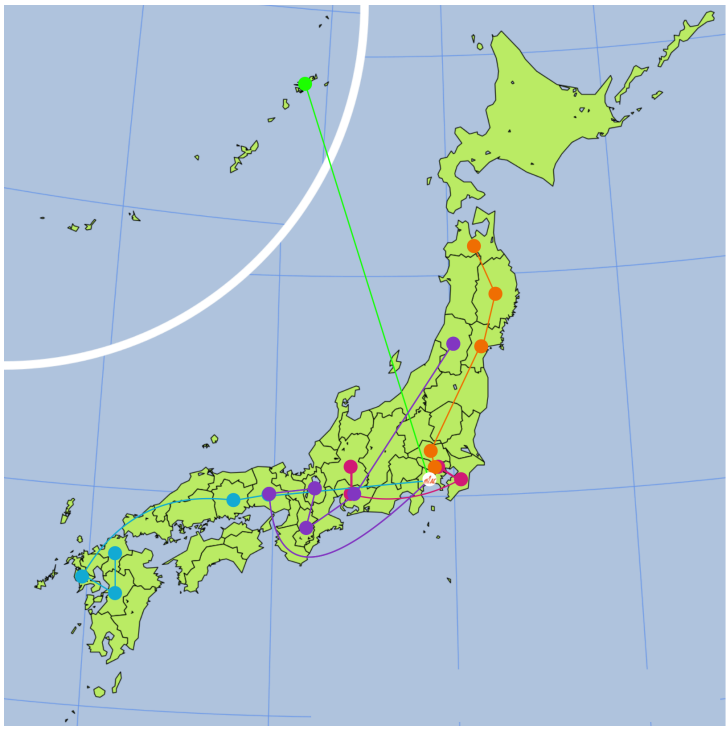
日本人選手たちと交わる機会が与えられました

★卓球宣教大会　in　韓国（2017年）

韓国の教会が市の体育館を貸し切って、400人近くが参加しました。試合の途中で礼拝と賛美を捧げ、クリスチャンもノンクリスチャンも共に体育館で礼拝を捧げている姿に感動しました。クリスチャン人口が多い韓国だからできることかも知れませんが、日本でも多くの教会が手を取り合ってやれば不可能ではないと思い、励ましを受けました。私たち夫婦が卓球ミニストリーに関わるきっかけになりました。

使徒の働きのように

～29章を歩む～

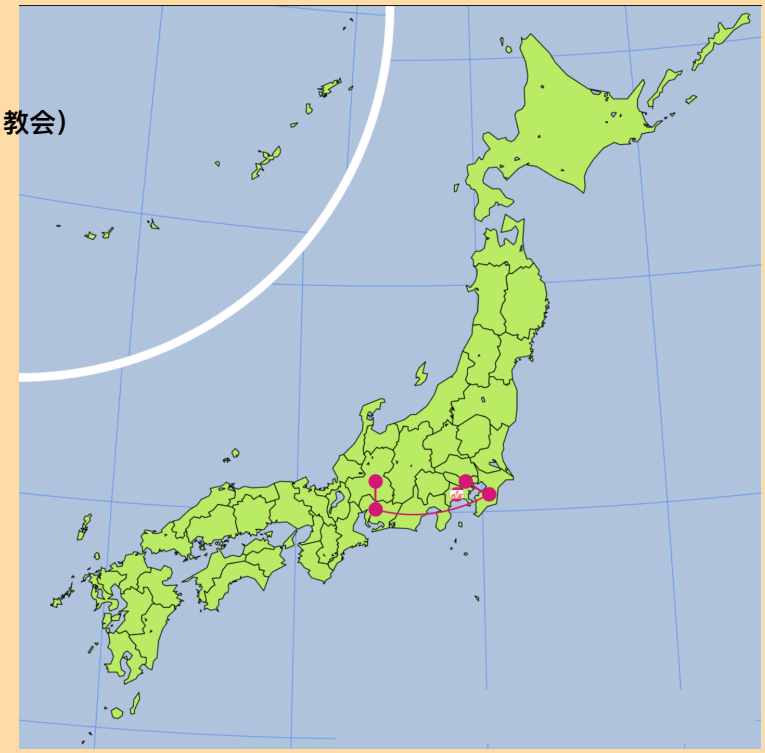


第1次宣教旅行(2018年)

スポーツを通して日本にリバイバルを！！！

使徒の働きを読んでいた時に「そうだ！足を運んで伝えて行こう」という思いが与えられました。ネットの時代なので、メールで「ポンッ」と送ることもできます。しかし、足を運んで情熱を伝えたいという思いで、何もわからずにとにかく一歩踏み出しました。
スポーツ宣教の大きな可能性を伝えることももちろん大切ですが、漠然と日本の8000の教会のために祈るのではなく、できる限り直接足を運び、日本の各教会のためにその場所で祈る思いを与えてくださいました。

6月19日（火）JECA総会（東京）
6月20日（水）八千代オンヌリキリスト教会（千葉）
6月21日（木）パークサイドチャペル（東名古屋キリスト教会）
6月22日（金）キリスト聖書神学校（名古屋）
6月22日（金）ヒズコールチャーチ（名古屋）
6月23日（土）海津キリスト教会（岐阜）



西山先生はその後横浜オンヌリキリスト教会に来られ、
今はKiSP（神奈川スポーツパートナーシップ）のメンバーとして一緒に働かせて頂いています。

息子さんの小池有君とその親友の萩野智明君、磯村直樹君と共に、フットサルミニストリーを進めています。

【その他の訪問教会＆働き】

新松戸教会（千葉）

ニューライフチャーチ原チャペル（愛知）

内灘聖書教会（石川）

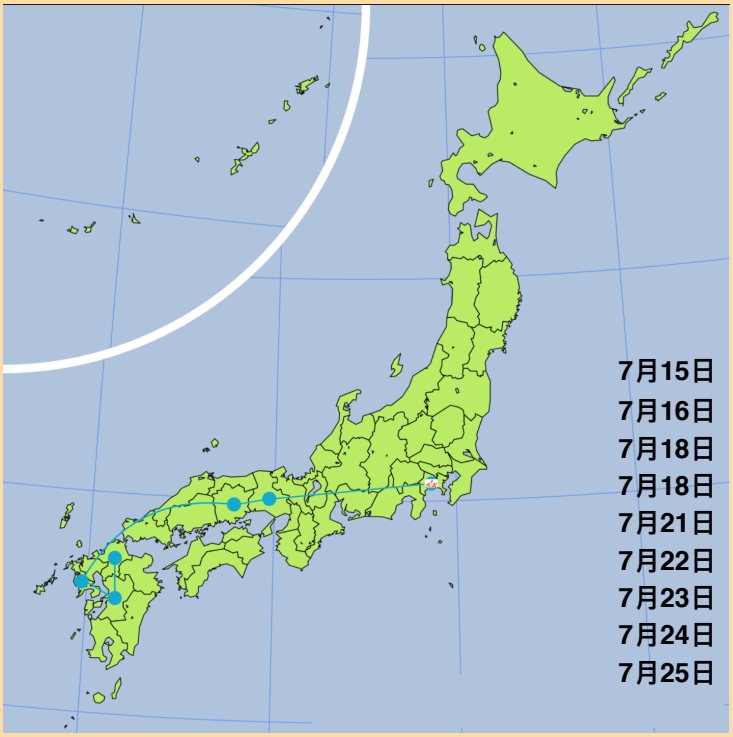
卓球ミニストリー

↑静岡国際スポーツパートナーシップ（SiSP)↓

名古屋オンヌリキリスト教会

ラグビーワールドカップ

第2次宣教旅行(2018年)



7月15日（日）熊本ハーベストチャーチ
7月16日（月）久留米聖書教会（福岡）
7月18日（水）日本イエス　長崎めぐみ教会　&　長崎バプテスト教会
7月18日（水）博多キリスト教会（福岡）
7月21日（土）日本イエス　香登教会（岡山）
7月22日（日）岡山リバーサイドチャーチ
7月23日（月）GRAPE VINE CHURCH（兵庫）
7月24日（火）BRIDE WORSHIP（大阪）
7月25日（水）大阪オンヌリキリスト教会

2006年個人的に陸上競技を学ぶために来日し、日本で初めて出席した教会が大阪のオンヌリキリスト教会。その時は、自分の力でスター選手となり、韓国と日本の架け橋になって、韓国の陸上界を変えるんだ！と自分の夢のために来日しました。
しかしこの12年間、主は私の弱さを一つ一つを癒やされ始めました。
神様が造ったもの、私に与えてくださったもの、また私自身をさえも否定し、教会に通いながらも反キリスト的な考えを持っていることさえも気がつかずにいた私を、神様はずっと待っていてくださっていて、もう一度大阪オンヌリキリスト教会に立たせてくださいました。スポーツと教会、また、スポーツ界のために祈りを求め、まだ見たこともない一人の魂のために訴えている自分がいました。
これが奇跡だと思いました！
これが主のみわざだと感じました！
宣教師の墓場と言われる日本で、私ははっきりと神様に出会っています。
この喜ばしい福音を、使徒パウロが腰を据え、約束の場所で主に仕えたように、これから私も伝えて行きたいと思います。

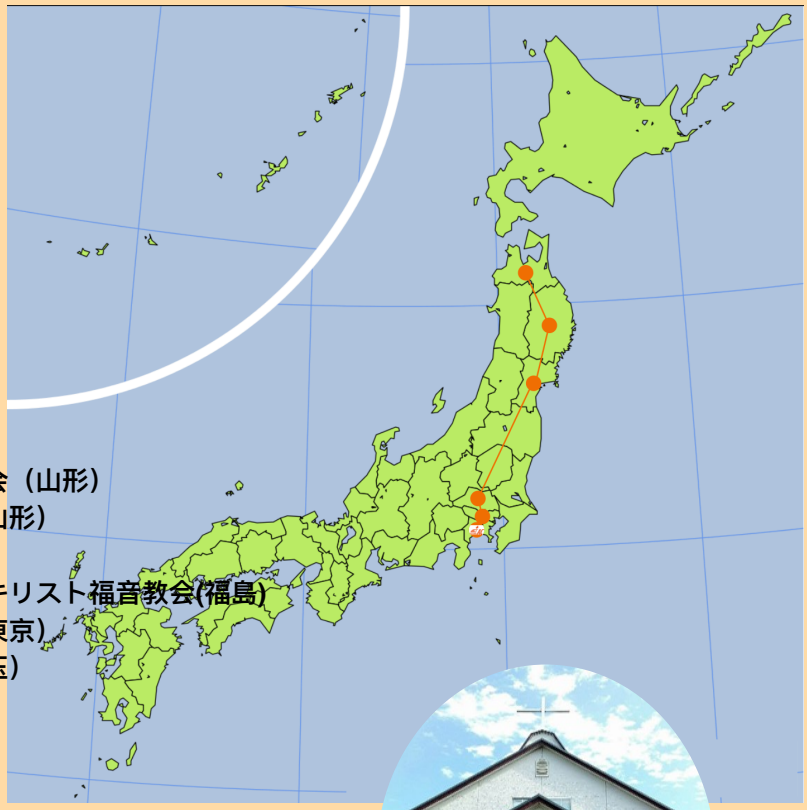
使徒の働き18章10節
わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。

主がともにおられるという約束。主が召された場所に救われるべき人がいるという確信。スポーツ界に救われるべき人がたくさんいます。

第3次宣教旅行(2018年)

スポーツを通して日本にリバイバルを！！！ 2400キロの旅！！！

青森の大間崎近くには、プロテスタントの教会が存在しないことを知り、車で走りながら、そして本州最北端の海を眺めながら、この地に教会が建てあげられるように祈りました。また、最北端から見える北海道の地を眺め、いつか北海道でもスポーツミニストリーを伝えることを宣言し祈りました。



8月19日（日）　青森バプテスト教会
8月20日（月）　あすなろ福音教会（青森）
8月21日（火）　北上聖書バプテスト教会（岩手）
8月21日（火）　陸前高田キリスト教会（岩手）
8月22日（水）　東北中央教会（宮城）
8月23日（木）　石巻オアシス教会（宮城）
8月24日（金）　ビクトリーチャペル聖書教会（宮城）
8月25日（土）　プレイズコミュニティチャーチ(宮城)
8月26日（日）　山形南部教会
8月27日（月）　Church of God　大江町キリスト教会（山形）
8月28日（火）　恵泉キリスト教会福田町チャペル（山形）
8月29日（水）　蓬莱キリスト教会　若枝学園（福島）
8月30日（木）　グローバルミッションジャパン　平キリスト福音教会(福島)
9月 1日（土）　神の家族主イエス・キリスト教会（東京）
9月 2日（日）　草加神召リバーサイドチャペル（埼玉）

今までの宣教旅行は、スポーツミニストリーの話しをさせて頂いていましたが、今回はみことばを通して伝える機会が与えられました。
各教会を訪問するたびに、様々な礼拝と賛美を体験し、そこで働いておられる神様に触れることができました。『みことばの力は変わらない』を体験する毎日でした。
宣教旅行に行くたびに、存在が回復され、主権が回復され、神の国の到来が回復されるのを目に見えるように感じます。一つひとつが「生き方の礼拝」の回復へと繋がることを確信しています。

創世記46章3節-4節
すると神は仰せられた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトに下ることを恐れるな。わたしはそこで、あなたを大いなる国民とする。
このわたしが、あなたとともにエジプトに下り、また、このわたしが必ずあなたを再び連れ上る。そしてヨセフが、その手であなたの目を閉じてくれるだろう。」

第4次宣教旅行(2018年)

スポーツを通して日本にリバイバルを！！！

2006年。私たち夫婦が最初に日本で出会い、陸上競技の合宿で一緒に訪れた奄美大島。
年末で教会が閉まり、牧師先生にお会いできないかもとあまり期待せずに飛行機に乗って渡りました。
しかし、その場に行ったら分かち合う場を与えてくださる神様!
離島でがんばっておられる先生方との出会いにこちらが励ましを受けました。
陸上競技と野球の冬の合宿地として有名な奄美大島。たくさんの選手たちが毎年集まります。
ぜひ、競技場に行って選手たちの救いのために祈ってくださいと伝えてきました。

12月28日（金）生ける神の子キリスト教会
12月29日（土）名瀬教会
12月30日（日）日本ホーリネス大島キリスト教会

第5次宣教旅行(2019年)

スポーツを通して日本にリバイバルを！！！

2019年に入りラグビーワールドカップの開催年になりました。
日本の12都市で開催されこの時期海外からもたくさんのクリスチャン選手たち、
宣教師たちが来日しました。また、2020年東京オリンピックを目前に、
『教会とスポーツ』を繋ぐ働きをアスリートチャーチは伝えていきたいと動いていました。

3月19日（火）　活けるキリスト一麦西宮教会(兵庫)
3月19日（火）　びわこシャロームチャペル(滋賀)
3月20日（水）　大和郡山めぐみ教会(奈良)
3月22日（金）　栄聖書教会（愛知）

ヘブル人への手紙11章1節
さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

10×10のビジョン-2024年に1000万人のクリスチャンを！
日本の8000の教会に聖霊の火がつき、スポーツを通してもリバイバルに備えていくことができますように。

【その他の訪問教会＆働き】

横浜オンヌリキリスト教会

山形第一聖書バプテスト教会

茅ヶ崎同盟教会(神奈川)

ファーストビンヤードチャーチ
可児福音教会(岐阜)

こひつじキリスト教会成沢チャペル（山形）

東京ライトハウスチャーチ

幸町キリスト教会（茨城）

鳩ケ谷福音自由教会(埼玉)

御徒町キリスト教会（東京）

新生釜石教会(岩手)

恵泉キリスト教会埼京チャペル(埼玉)

ニューホープチャペル彦根(滋賀)

シドニーオリンピック銅メダリストテコンドーの岡本依子先生

韓国卓球ミニストリーメンバー
オリンピック金メダリスト：ヤン・ヨンジャ宣教師
アジア大会金メダリスト：パク・ジヒョン宣教師

青山学院大学チャペルウィークで奨励

「暗闇から光へ」青山学院大学での奨励をYouTube動画にしました。
こちらからご覧になれます。(QRコードリーダーで読み込む)

青山学院大学　箱根駅伝壮行式

山形春季聖書学校
（恵泉キリスト教会恵泉宣教センター）

断食祈祷聖会（東京中央教会）

日本信徒前進宣教前進大会
（栃木オリーブの里）

韓国オンヌリ教会スポーツ宣教部　宣教セミナー

SASUKE出場

【スポーツミニストリーの二本柱】

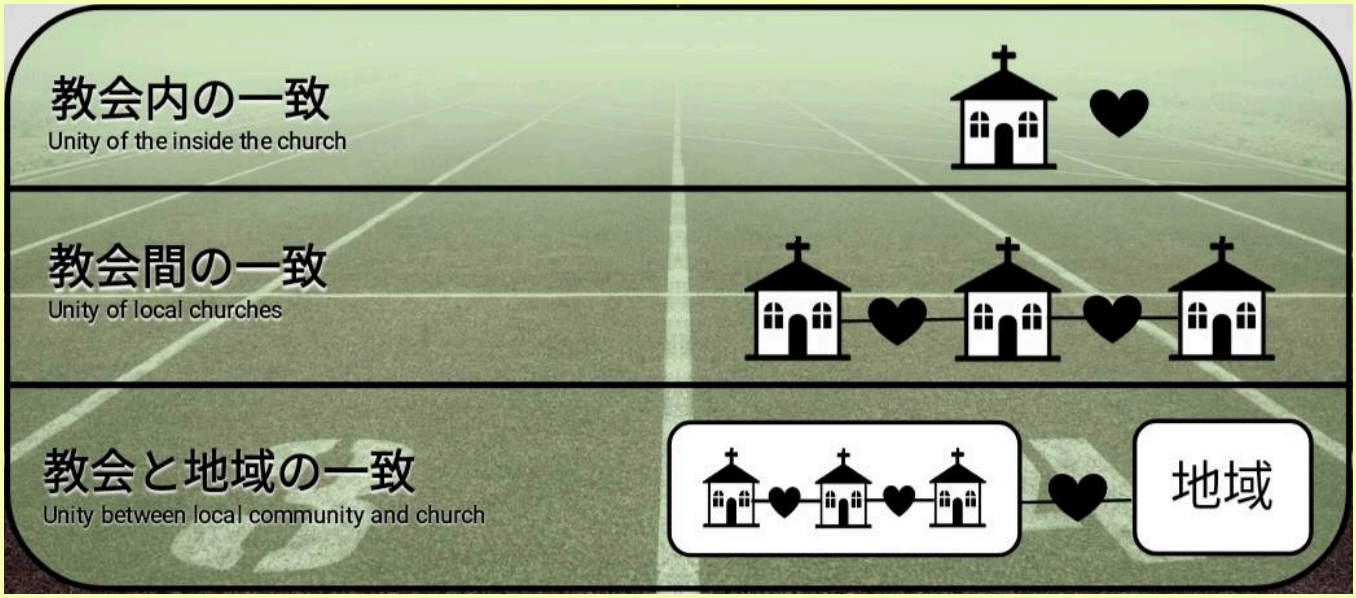
～なぜ、日本にスポーツミニストリーが必要か～

★一人の魂のために、部活・スポーツに関わる者たちへ

輝かしく、何でも持っているように見えるスポーツ選手たち。しかし、栄光の陰では、様々な問題で苦しみ、孤独と戦っています。
ここ数年スポーツ界ではたくさんの問題が浮き彫りになりました。
麻薬、万引きで逮捕された選手、アメフトのタックル問題、不倫騒動など。スポーツ界で悲しいニュースが飛び交っています。彼らの心を満たすことができるのはイエス・キリストであったとしても、このような選手たちは教会で待っていても来ることはありません。その現場でイエス・キリストを伝える人が必要なのです。
体育館で、サッカー場で、プールですべての場所でイエス・キリストを伝える者が必要です。
教会にも部活に関わる選手たちがいます。私たちができるのは、この選手たちを教会に引き留めるのではなく、体育館で、サッカー場で、プールで、スポーツする場所で礼拝する者として、宣教者として祈って送り出すことだと思います。
スポーツの現場にも礼拝の場が必要で、イエス・キリストを伝える者が必要であるということです。
スポーツを愛好する約8000万人の救いのために祈ってください。そして、部活やスポーツに携わる者がいれば祈ってその現場に送り出すことを願っています。

★一致をもたらすスポーツミニストリー

今日、英語よりも多くの人々に語られている言葉があります。それはスポーツです。スポーツが言語なのかということにもなりますが、一定のルールの下で互いのコミュニケーションを図ることができるという点において、ルールは、いわば言語における文法にあたりますから、スポーツは立派な「言語」と言うことができるのではないでしょうか。
スポーツは、その裾野がとても広いので、最大の世界共通言語であると言えるでしょう。スポーツを通して人々に繋がり、人々にイエス・キリストを伝えているのです。スポーツを聖霊に導かれた世界宣教ツールとして用いているのです。
今まで、音楽と芸術は教会の中で、礼拝の中でも大いに用いられてきました。音楽をやっている人が救われたら、教会で与えられる働きもあり、居場所もあります。しかし、スポーツをやっている人が救われて教会に来ました。その時今の日本の教会で居場所があるでしょうか? なかなか難しいと思います。
スポーツを教会が受け入れた時の良さがあります。
スポーツという共通言語を用いて一致をもたらします。
今、日本の教会に与えられているのは『一致』です。
その一致のために、スポーツは大きな可能性を持っています。



① **教会内の一致**：教会の中の一致がもたらされる。年代を超えて一つになることができる。

卓球・ランニング・フットサル・登山・バドミントン・運動会・ハイキングなど

（ランニング）

地域のロードレースに一緒に参加することを目標に、大会3か月前から10回にわたって共に走る練習をします。共に汗を流し、走りながら交わりを持つことができます。
ロードレースに参加する者は走る礼拝者として、
応援する者は執り成しをする者としてその場所に豊かないのちを流していきます。

地域に豊かないのちを！！！
キリストにあって走ることも礼拝です

エゼキエル47章9節
この川が流れて行くどこででも、そこに群がるあらゆる生物は生き、非常に多くの魚がいるようになる。この水が入ると、そこの水が良くなるからである。
この川が入るところでは、すべてのものが生きる。

（賛美体操）

教会で親しまれている賛美に合わせて体操を作ります。
年齢を問わず同じ動作をすることで、
ラジオ体操のように一体感が生まれます。
ダビデが主を喜び踊ったように、
霊と魂の喜びは体をもって現されます。

② **教会間の一致**：教団教派の壁が崩され、地域教会が一致する。

One for church church for one

バスケット・卓球・ドッチボール・バドミントン・ソフトボール・フットサルなど

（卓球）教会親睦卓球交流会

教団教派を越えて、『卓球』という言語で一致する働きは進んでいます。

（funスポーツ）

ハイキング・登山など気軽に集まって運動をします。

幾つかの地域教会が集まって公園で一緒に遊び、運動をして交わりを持ちます。

（オンラインスポーツ宣教）

日本国際スポーツパートナーシップ（JiSP）と協力して開催しています。

③**教会と地域の一致**：教会と地域の壁が崩される。

創世記18章32節

滅ぼしはしない。その十人のゆえに。

私たちは礼拝者として、神様を知らない者たちの中に行き、執り成しの祈りを捧げなければなりません。スポーツを通して地域との交流を持つことができます。

直接、福音を伝えることはできません。しかし、礼拝者としてその場所に行き、祈ることが大切です。

（地域の様々な場所でスポーツクリニック）

陸上教室（逗子市体育協会主催）

かけっこ教室（本牧山頂公園）

公立小学校でかけっこ教室

健康体操＆食事会（横浜中華街）

(フェスティバル)

被災地でスポーツフェスティバル

音楽とスポーツとのコラボ　Hello Jesus Festival

【日本の教会の長所(ギフト)を活かす】

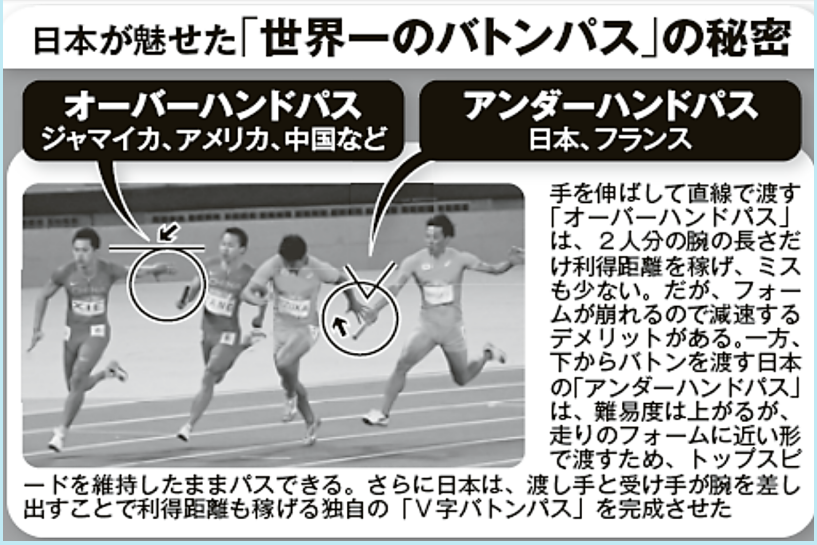
今まで、多くのクリスチャンがアメリカや韓国などで起こった大きなリバイバルが日本にも起こったらいいなと思っていたと思います。
しかし、そのような大きな目に見えるリバイバルではなく、神様は、日本にふさわしいリバイバルを準備されていると思います。

例えば、日本のスポーツ選手やスポーツチームの多くが海外の、特にアメリカのトレーニングを取り入れて、本当の自分らしさや強みを失うケースがあります。ある野球選手がアメリカの選手のようにパワーをつけるために体を大きくしたら、ケガを抱えるようになり、その結果、選手生命が縮んでしまうということがあります。
しかし、日本人である自分の良さを最大限に活かし、自分らしさを追求し、身体は小さいけれど世界の伝説となった野球選手もいます 。
自分に無いものを身につけるのではなく、自分の長所を最大限に活かすのです。

これを教会に照らし合わせて見ると、韓国やアメリカの教会を導いてくださった方法を日本の教会がそのまま取り入れていっても、日本には当てはまらないと思うのです。
日本の教会の良さを最大限に活かしていく必要があるのではないでしょうか?
そこで、日本の良さは何かを考えてみたいと思います。
日本に神様はギフトを与えてくださいました。それは『**チームワーク-*One Team***』です。日本のスポーツチームの形成が、日本の教会形成のモデルにできると思います。
日本人は一人ひとりはそれほど強くなくても、オリンピックなど同じ目標が掲げられてチームが結成された時には本来の力以上のものを発揮する傾向にあります。種目に関係なく、お互いに信頼し、励まし、慰めていった時に、素晴らしい結果を生み出します。

皆さんも最近は日本の陸上のリレーは必ず世界大会でメダルが獲れる種目として見ておられるでしょう。

メダルを獲るために年月をかけて「世界一のバトンパス」を生み出しました。ジャパンオリジナルのアンダーハンドパスです。



日本チームは絶対メダルが獲れるチームになると目標を掲げて進んできました。
20年の間先輩から後輩にノウハウを伝え、支え続けてきたのです。
日本人は身体が小さいから無理だ、10秒の壁は破れないと言われ続けても、絶対メダルを獲ることを信じてチャレンジしてきました。

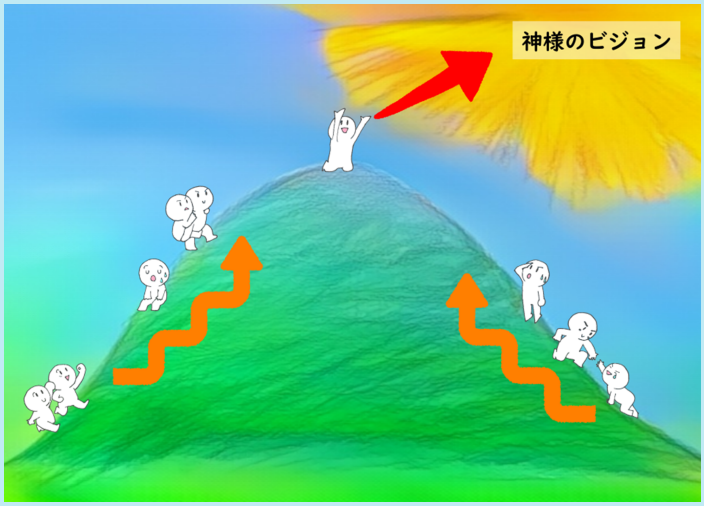
リレー走者の100m自己ベストと400mリレーのタイム

	第1走者	第2走者	第3走者	第4走者	100m合計	400mリレー
日本	山縣	飯塚	桐生	C飛鳥	40”38	37”60
	10”05	10”22	10”01	10”10		
ジャマイカ	パウエル	ブレーク	アシュミード	ボルト	38”89	37”27
	9”72	9”69	9”90	9”58		

上の表を見てください。一人ひとりの速さを見たら、ジャマイカはみんな9秒台、日本はみんな10秒台。どう見ても歯が立たないのですが、日本の長所を活かしチームで戦った時には僅差(きんさ)になります。金メダルにも届く位置にいるのです。
野球の場合、ジャイアンツや阪神、ベイスターズ、楽天などプロ野球チームの各球団に所属していても、オリンピックの時には『侍ジャパン』として自分の所属にこだわらず一致できます。
同じように、地域教会も『地域に福音を伝えるため』というビジョンを掲げた時に、教団教派の壁を越えて一致していけるのではないでしょうか?
その時に大きな力が発揮されるのではないでしょうか?
また、チーム力を上げるために自分に与えられた賜物（ギフト）をそのチームのために捧げ、努力していると必ず個々の力もアップされていきます。
『地域に福音を伝えるため』というビジョンに向かってチームで仕えていくなら、各教会も強められていくのだと思います。

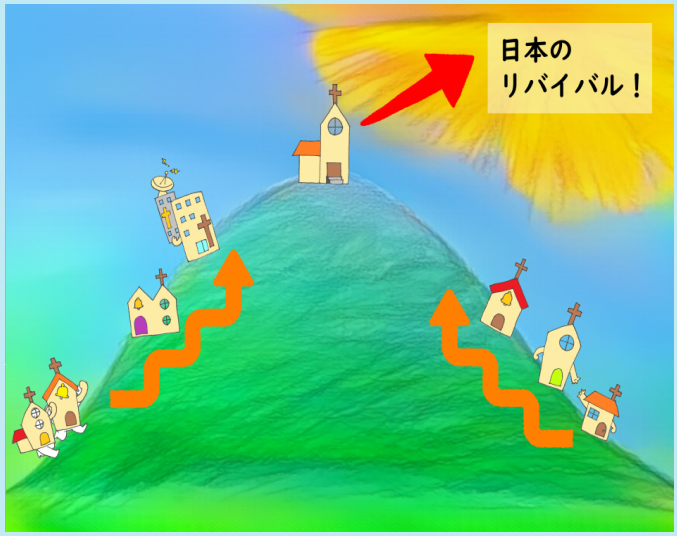
そして、チームを形成するために大切なことは、**ビジョンにコミット**することです。
優勝を目標に掲げているチームにはたくさんの人が入部を希望します。
そして、同じ目標に向かって進む中で、一人ひとりが強くなり自分が持っている以上の力を発揮していきます。
その中でもコーチやチームの雰囲気を乱す者は必ずいます。しかし、目標に向かって進む意識を持つ
選手が多ければ多いほど、そのチームの雰囲気は意識の高いチームになります。反対方向を向いてい
る選手を大波に巻き込んで同じ方向に連れていくのです。
同じ目標・同じ夢を持った人が増えてきたらチームは変っていくのです。
日本にも大波が必要です。今あちらこちらで小さい波が立ち始めました。
しかし、日本の8000の教会を同じ方向に連れていくビジョンの大波が必要です。

同じビジョンに向かって手を差し伸べ、
時にはおんぶし、背中を押して、共に支え合い、
助け合いながら進んでいったときに、
まだ誰も見たことがない神様のビジョンを
一緒に見ることができます。
頂上にあがって素晴らしい神様の景色を
共に見ることができます。



教会も同じであると思います。

地域教会が同じビジョンに向かって手を差し伸べ、
時にはおんぶし、背中を押して、共に支え合い、
助け合いながら進んでいったときに、
まだ誰も見たことがない神様のビジョン、
日本のリバイバルを一緒に見ることができます。
頂上にあがって素晴らしい神様の景色を
共に見ることができると思います。



日本人は同じビジョン目標を持ったときに強くなります。
神様と同じビジョンを持ったときに強くなることができます。
神様が日本に与えられているギフトである「チームワーク」を活かして、
同じビジョンに向かって進んでいきましょう!
必ず神様が準備してくださっているものがあるはずです。

【アスリートチャーチの今後の歩み】

ヨハネの福音書15章16節
あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。
それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、
また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、
父が与えてくださるようになるためです。

★祈祷会

クリスチャンスポーツマンたちと共に祈る。
アスリートチャーチを支えてくださっている方たちと共に祈る。

★地域の各教会の賜物に合ったスポーツミニストリーを提供

教会にスポーツを取り入れてみたい方、ノウハウを知りたい方のお手伝いをさせて
いただきます。教会学校、キャンプ、イベントなどそれぞれの教会に合ったものを一緒に
考えていきます。

★弟子訓練 ✚ 実践に基づいたスポーツ神学の形成

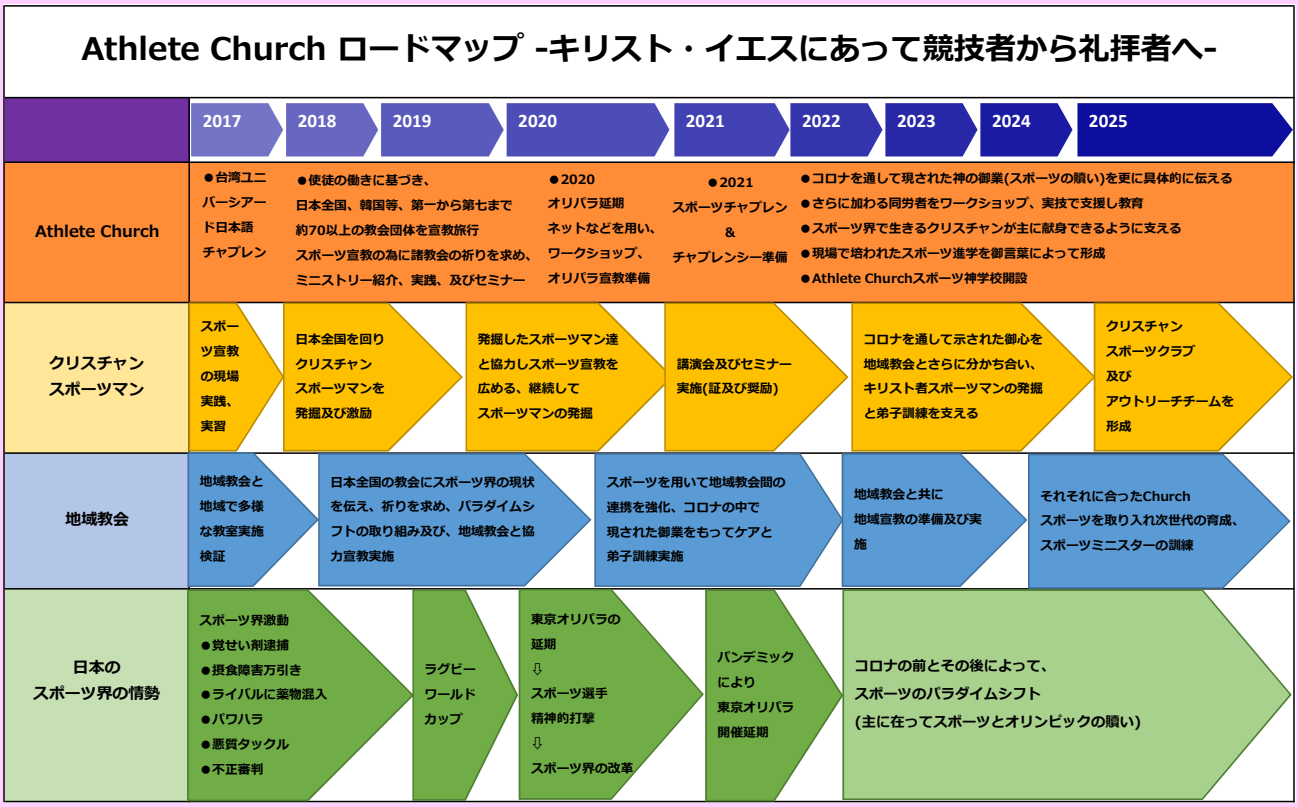
～キリスト・イエスにあって、競技者から礼拝者へ～
ヨハネの福音書14章6節
わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してで
なければ、だれも父のみもとに行くことはできません。

スポーツがただのツールとしてだけ用いられるのではなく、スポーツを通して弟子訓練が成され、日本でもスポーツに関わる中で弟子を育てる。

★スポーツを通して弟子を育てる
●日本のスポーツ愛好者たち約8000万人のスポーツ人口の魂の救いに携わるために、スポーツに関わるキリストの弟子を大切に育てる必要がある。
●スポーツを通じて実際にミニストリーを行っているが、ただ楽しむだけのものからキリストの弟子を育てていくステップを伝える。
●スポーツの現場が礼拝の場所であり、チームが一つの共同体である。その中で指導者は牧者の役割を担い、福音を伝え、選手たちをキリストの愛で養っていく。

★神学校や宣教訓練にスポーツを取り入れていく
●スポーツ界に生きる献身者の育成を行う。
献身することで競技をあきらめ神学校に通う道を選んでいたが、スポーツを取り入れることでスポーツをしながら神学、宣教の学びができるようになる。そして、すぐにスポーツの現場で仕えることができる者を育てることができる。
●教会におけるスポーツに対するパラダイムシフトを図ることができる。
多くの教会が部活の問題に悩んでいる。スポーツを通して神様に仕える道があるということが目に見えてわかると、部活を辞めて教会に留まることだけが信仰を守ることであるという考えを覆すことができる。

【ロードマップ】



【祈祷課題】

・スポーツ界でキリストの弟子を育てるための準備を進めていくために、仲間が与えられますように。
・夫婦・家族が一致して神様と共に歩んで行くことができますように。
・スポーツの現場や必要な場所に出向いて、その場所で礼拝を捧げ、交わりを持てるように、
そのための車が与えられますように。デリバリーチャーチを目指しています！

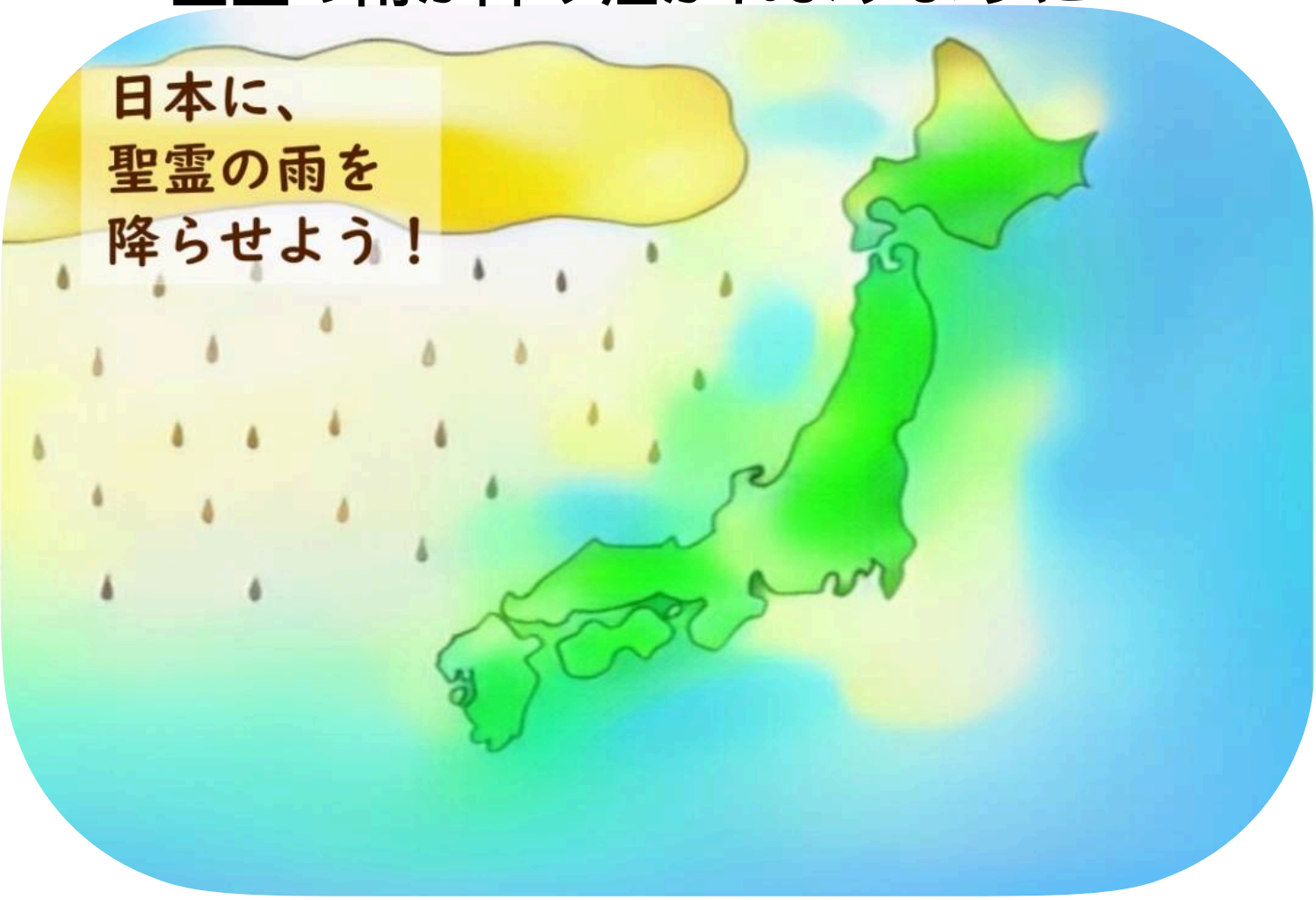
アスリートチャーチ

〒244-0842

神奈川県横浜市栄区飯島町 1444-1　リリファ本郷台 404 号

代表：金ジングク　　TEL 090-6376-8231
EMAIL　athlete.church@gmail.com

顧問：米内宏明（日本国際スポーツパートナーシップ代表）
池田恵賜（本郷台キリスト教会牧師）

【支援先】
ゆうちょ銀行
記号　１０９４０
番号　１９７３７５６１
他金融機関からの振込の場合
店名　〇九八（ゼロキュウハチ）
店番　０９８
預金種目　普通預金
口座番号　１９７３７５６
口座名　アスリートチャーチ運営委員会

一致した祈りによって、
聖霊の雨が降り注がれますように!